本島通信

発行所　〒763-0223
香川県丸亀市本島町泊268
天理教本島大教会
電話 0877-27-3321（代）
本島通信編集室　R.230123-0126-20
奈良県天理市指柳町270-1
本島詰所　〒632-0093
電話 0743-63-1571（呼）
https://www.honjima.com
Email: webmaster@honjima.com

大教会 朝夕おつとめ時間
【2月1日～2月15日】
朝づとめ　午前6時45分
夕づとめ　午後6時15分
【2月16日～3月31日】
朝づとめ　午前6時45分
夕づとめ　午後6時30分

本島大教会 春季大祭神殿講話（要旨）　【立教186年1月22日】

「皆んな一つ〳〵の理を寄せてくれるよう」

本島大教会長　片山幹太（かたやまかんた）

昨日の本部巡教に続いて、本日は本島大教会春季大祭にご参拝頂き誠にありがとうございます。

今年のNHK大河ドラマ「どうする家康」が始まりました。私にはタイトルが「どうする幹太」と見えるのです。優柔不断で慎重な性格に、「教祖140年祭に向かうこの旬をどうするんだ」と問われているように思います。

世話人の宮森与一郎先生が、「どうする」というときにこそ、教祖の教えに求めることが大事であるとお話されたことがあります。

まずは、諭達第四号に掲げられているおさしづを通して理の思案を深めさせて頂きたいと思います。

ひながたの道を通らねばひながた要らん。（略）ひながたの道より道が無いで。

これは明治22年11月7日、今から135年前になりますが、教祖五年祭に向かっての刻限さしづです。

「ひながたの道を通らねばひながた要らん。」とは、たすけ一条のために示したそのひながたを通らないようなら、教祖が示したひながたの道は必要がなくなってしまう、という意味です。そして、

「ひながたの道より道が無いで。」とは、教祖によって示されたひながたの道のほかには陽気ぐらしへと通ずる道はない、という意味です。

この刻限さしづはかなり長いおさしづになりますが、その最後は次のお言葉で締めくくられています。

そこで皆んな一つ〳〵の理を寄せてくれるよう。僅（わず）か三年の間の事を、長う取るからどんな理も出る。たった三日（みっか）の間や。三年の道通れば、不自由しようにも、難儀しようにもしられやせん。たった三日の間や。

これを一節ずつ解説させて頂きたいと思います。

「そこで皆んな一つ〳〵の理を寄せてくれるよう。」とは、親神様は皆一人ひとりがそれぞれの真実を寄せ合って、一手一つで運んでくれるように望んでいる、という意味です。一人に負担をかけるのではなく、一人ひとりが真実を寄せていくことを親神様は望まれているのです。

「僅か三年の間の事を、長う取るからどんな理も出る。」とは、この三年の間のことを長い年月のように思うから不足が出たり、いろいろな人間思案も出る、という意味です。いきなり三年と言われたら長いと思いますね。そこで

「たった三日の間や。」とは、言ってみればたった三日間のことである、という意味です。なぜ三年ではなく三日なのでしょうか。

「三年の道通れば、不自由しようにも、難儀しようにもしられやせん。」三年の道をしっかりと通るならば、不自由しようにもせられず、難儀しようにもすることのできない結構な道を見ることができるようになるのである、という意味です。そして、

「たった三日の間や。」です。たとえ三日の間でも教祖のお通り下された誠真実の心で通るならば、必ず三年千日は通れる、という意味になります。

世（よ）に三日坊主という言葉がありますが、逆にまず三日間頑張って通ってみなさい。三日間通れたら、三年

千日も通れる。三年と聞くと長いと思うけど、まず三日間歩ませて頂くことからなら始められるでしょう。

ここで教祖の逸話を一つ例にしたいと思います。

教祖伝逸話篇八二「ヨイショ」

明治十四年、おぢばの東、滝本の村から、かんろだいの石出しが行われた。この石出しは、山から山の麓までは、真明組の井筒梅治郎、山の麓からお屋敷までは、明心組の梅谷四郎兵衛が、御命を頂いていたというが、その時、ちょうど、お屋敷に滞在中の兵庫真明組の上田藤吉以下十数名の一行は、布留からお屋敷までの石引きに参加させて頂いた。

その石は、九つの車に載せられていたが、その一つが、お屋敷の門まで来た時に、動かなくなってしまった。が、ちょうどその時、教祖が、お居間からお出ましになって、

「ヨイショ」

と、お声をおかけ下さると、皆も一気に押して、ツーッと入ってしまった。

一同は、その時の教祖の神々しくも勇ましいお姿に、心から感激した、という。

教祖はお居間からお出まし、ということは家の中から外へ出てこられたということです。車が門前で動かなくなって、私だったら居間の中から青年に「ちょっと手伝いに行ってきて」と指図するでしょう。

なぜ教祖はわざわざお出ましになって、「ヨイショ」と声をかけられたのでしょうか。

これは私の悟りですが、石出しは真明組と明心組が教祖から御命を頂いて勤められていたところ、兵庫真明組が「私達もさせて頂こう」と買って出られたのです。教祖の御用に少しでも役に立ちたい、ご恩に報いたい、そういう勇み心に教祖がわざわざお出まし下さったのではないかと思います。

そして「ヨイショ」の掛け声も軽い掛け声ではなく、「イーヨイショ」だったと思うのです。この「ヨ」のときに全員が一斉に心も身体も集中して石出しの車を動かされたのではないでしょうか。

教祖は皆の心を一つに、力を一つにするために「ヨイショ」とお声をかけて下さった。

このたびの論達第四号も「全教の心を一つにしたい」というお言葉から始まります。これが教祖の「ヨイショ」だと思います。

先ほどのおさしづに戻りますが、「そこで皆んな一つ〳〵の理を寄せてくれるよう。」とは、まさに論達をもって心を寄せていこうということだと思います。

「たった三日の間や。」つまり誠真実の心で通る教祖ひながたについて、論達では次のように述べられています。

教祖はひながたの道を、まず貧に落ちきるところから始められ、どのような困難な道中も、親神様のお心のままに、心明るくお通り下された。

教祖はたすけ一条のひながたをお通り下さいました。その歩み方は、どんな困難な道中も「心明るく通る」ことにあります。

大教会神殿には「教祖(おやさま)のひながたを辿る」という垂れ幕を掲げています。宮森先生が2年前の神殿講話で「教祖のひながたを辿るとは、どうすればよいのでしょう」と問いかけられました。

先生は、「教祖のひながたは、貧に落ち切られたのも、をびや許しを道明けに不思議なたすけを次々とお表しになったのも、官憲の激しい弾圧の中を教祖お一人勇んでお通り下されたのも、最後の最後までおつとめを急き込まれたのも、すべては分からない者へ分かってくれるようにとの努力であり、配慮でありました。そして心配でありました。すなわち教祖のひながたとは、分からない人に分かるようになるまで伝える。これがひながたであります」と明解にお話し下さいました。

つまり「教えを伝える」ということです。この教えをあきらめずに伝える努力をさせて頂きましょう。私の場合、一度で伝わらなければつい「あかんな」とあきらめてしまうことがありますが、伝わらなければ「一回おぢばに帰って、もう一度伝えに行こう」「十二下りを勤めて伝えに行こう」と努力して伝えようとすることが誠真実であり、そのような心で三日間通らせて頂く。その積み重ねで三年千日を通り切ることができると思うのであります。

このたびの教祖年祭活動の大事な点は、全ようぼく一人ひとりが心を定めて歩むことにあります。

「教会が年祭活動をすればいい」「会長さんがすればいい」「成人の出来ている人がすればいい」という活動では決してありません。

全てのようぼくが年祭活動に取り組むことが、教祖にお喜び頂く通り方であると信じます。

「どうする家康」ではなく、「どうする○○」と自分の名前を入れて、教祖ひながたの道を歩ませて頂きましょう。

家康の名言に「不自由を常と思えば不足なし」があります。教祖ひながたの道を三年千日通り切ったら、不自由であろうとなかろうと、常に晴天の心で明るく陽気に過ごすことができるようになると思います。

教祖140年祭は立教189年1月26日、令和8年、西暦2026年です。教祖140年祭に向かって、一人ひとりが心を定めて通らせて頂きましょう。

ご清聴ありがとうございました。

（文責・本島通信編集室）

教祖140年祭 本部巡教

本部員田中善吉先生の本部巡教ご講話（全文）は来月、本島通信特別号として発行させて頂く予定です。

教祖140年祭に向かう年祭活動の指針となる「諭達第四号」が発布されたことを受け、『本部巡教』が1月21日午後2時より本島大教会で開催され、本部員田中善吉先生が登壇。「諭達」を拝読した後、年祭活動の意義についてご講話を頂きました。

田中先生は冒頭「この度の百四十年祭に向かっての年祭活動は、私ども教会長はもちろん全教のようぼく、信者の心がこの諭達の精神をもとに一つとなって、三年千日の年祭活動を進めていくことが非常に大事な点になります。そこで今回の本部巡教は、まず教会長を初め、主立つ方々に『諭達』に込められている精神と、年祭活動の意義をいち早くお伝えして、皆さん方に全教の先達として、それぞれの教会に繋がるようぼく信者の皆さん方の牽引役（けんいんやく）となって頂くことを目的としているので、まずは皆様方と共に『諭達第四号』の精神をしっかり心に治め、これから年祭活動の私たちの歩み方を考えたいと思います。」と述べられ、約1時間にわたって諭達に込められた精神を諄々（じゅんじゅん）とお話し下さいました。

本部員 田中善吉先生

そして最後に「陽気ぐらしへ向かうこの道を進展させていくためには、私たちこの道を歩む者一人ひとりの成人、即ち教祖ひながたを目標とした教えの実践と、たすけ一条の実践、つまり陽気ぐらしを世界の人々に伝え、広めさせてもらう。一緒にこの道を通ってくれる新たな人を導いていくことが必要不可欠です。教会は、陽気ぐらしのこの道を伝え広めていく最前線にある拠点、拠り所です。その最前線にあるそれぞれの教会が、繋がるようぼく・信者の皆さん方とその役割をしっかりと果たしていくことが欠かせません。どうか、道の先達でもある私たちが、まず心定めをしっかりさせてもらって、これからの三年千日を仕切って、教祖ひながたの道を本気で実践して通り、にをいがけ・おたすけに励ませて頂きましょう。」と、年祭活動への心定めを促され、締めくくられました。

この後、大教会長は閉講挨拶にて「真柱様の思いに我々全ようぼくが心一つに合わせて、各教会やようぼくが各々しっかり方針を立てて心定めを行い、教祖140年祭当日には教会が進展している姿を教祖にご覧頂けるように努めさせて頂こう」と決意を述べ、続いて田中先生を芯におつとめが勤められました。

なお、このたびの本部巡教には179名が参集（教会長79名、教会長配偶者25名、教会長子弟19名、その他56名）、そのほか海外教会に限定でライブ中継を行い、21名が視聴しました。

春季大祭 祭典役割

献饌長 井上哲

伝供 平井真治郎・篠原丕王・永山晴明・吉田晴雄・向所隆文・永島宗行・後藤正治・伊東康成・高垣光治・雲庵春彦・片山直明・茶屋原良昭・高島栄造・長濵充憲・岩橋守行・長尾海和・白垣初生・老木俊彦・岩橋秀一・鎌田典夫・山下英久・上山康雄・滑川善久・時久英次・村田輝夫・川村吉夫・溝口晋太郎・大矢万三

雅楽奉仕者 池田恒治・片山秀明・香川高範・上山薫・伊東賢太郎・鎌田康典・伊東慎平・鎌田仁史・吉田貴慶・白垣俊生・奥村由多加（順不同）

祭主	大教会長	座りづとめ	地方	てをどり	笛
指図方	大西知				ちゃんぽん
扈者	片山勲				拍子木
	岡崎マーロン	てをどり前半			太鼓
賛者	大上道徳				すりがね
	岩橋元博	てをどり後半			小鼓
					琴
					三味線
					胡弓
神殿講話	大教会長				

座りづとめ	牧野道昭	大教会長	大教会長	岡崎八十則	岡崎八十則
	老木邦光	岩橋慶三	岩橋竜造	雲庵道延	雲庵道延
	井上哲	長谷川邦昭	寺本教生	岩橋竜造	岩橋竜造
		会長夫人	斉藤カーレン	斉藤カーレン	斉藤カーレン
		片山やすゑ	窪田靖明	窪田靖明	窪田靖明
		長尾澄子	池田さわみ	池田さわみ	池田さわみ
			片山榮	片山榮	片山榮
			向所暉美子	向所暉美子	向所暉美子
てをどり前半	西山道教	岡崎マーロン	岡崎マーロン	高島栄造	高島栄造
	平井真治郎	向所隆文	向所隆文	永島宗行	永島宗行
	伊東康成	長濵充憲	長濵充憲	後藤正治	後藤正治
		岡崎むつゑ	篠原丕王	篠原丕王	篠原丕王
		原口和子	永山晴明	永山晴明	永山晴明
		高垣洋子	吉田知彦	吉田知彦	吉田知彦
			井上みつの	井上みつの	井上みつの
			雲庵まち子	雲庵まち子	雲庵まち子
			岩橋元実	岩橋元実	岩橋元実
てをどり後半	雲庵春彦	高垣光治	高垣光治	岩橋秀一	岩橋秀一
	長尾海和	片山直明	片山直明	位下道治	位下道治
	大矢万三	茶屋原良昭	茶屋原良昭	岩橋守行	岩橋守行
		伊東晴美	伊東晴美	宮路和徳	宮路和徳
		片山美穂	片山美穂	肥後章	肥後章
		長尾善絵	長尾善絵	老木俊彦	老木俊彦
				梅木澄代	梅木澄代
				岩橋貴子	岩橋貴子
				菅岡和美	菅岡和美

春季大祭祭文

立教百八十六年一月二十二日

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教本島大教会長片山幹太慎んで申し上げます

親神様には人間の陽気ぐらしを見て共に楽しみたいとの思召からこの世と人間をお創め下され旬刻限の到来と共に教祖を月日のやしろとして表にお現われ下され世界たすけの御教えをお啓き下さいました

以来永の年限果てしなき親心と自由の御守護のまにまに陽気ぐらしへの道にお導き下さいます御慈愛の程は只々有難く勿体ない極みでございます

私共は届かぬながらも御恩報じを念じて日々たすけ一条の御用に励ませて頂いておりますが、その中にもこの月二十六日は教祖が五十年のひながたの道をお遺し下され尚も子供の成人をお急き込み下さる深い親心から二十五年先の御定命をお縮めになり御存命のまま世界たすけにお出まし下さいました尊いゆかりの月に当りますのでぢばの理に慣い只今から役目に与るおつとめ奉仕者一同おつとめに込められたをやの思いを胸に一手一つに心を合わせて座りづとめ・てをどりを陽気に勇んでつとめて春の大祭を執り行わせて頂きます

御前には折からの寒さもいとわず国の内外から帰り集いました道の子供達が積り重なる日頃の御高恩と厚き親心に御礼申し上げ尚も自由の御守護にお縋りする真実の状をもご覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

尚昨日は教祖百四十年祭三年千日の歩み出しに当たり本部員田中善吉先生のお入り込みを賜り「本部巡教」を受講させて頂きました

私共は「諭達第四号」に込められた真柱様の思召をしっかり受け止めさせて頂いて教祖のひながたを胸に普段よりも力強くたすけ一条の歩みを一手一つに推し進めさせて頂く所存でございます

さらに今月二十五日本島詰所において「教祖百四十年祭決起の集い」を開催させて頂き参加者が大きな歩み出しのためお互いに胸襟を開いて年祭活動への意識を高めさせて頂きたいと存じます

さらには来る二月から五月にかけて「教祖百四十年祭全教会一斉巡教」を実施して全ようぼく信者が「諭達第四号」の精神と共に年祭活動の意義を心に治めそれぞれが成人の目標を定めて三年千日を勇んで歩み出させて頂く決意でございます

何卒親神様には私共の心定めをお受け取り下さいましてよろづたすけの上には一段と自由の御守護を賜り世界一れつが争いの無い互い立て合いたすけ合う陽気づくめの世の状に一日も早く立て替わりますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

（原文のまま）

教祖140年祭 本島大教会決起の集い

本島大教会では「教祖140年祭本島大教会決起の集い」を1月25日午後1時より本島詰所4階講堂にて開催し、教会長など90名が参集しました。

これは1月21日の本部巡教を受け、2月から全教会一斉巡教が始まる前に、教祖140年祭に向かって各教会長がどのような具体的な活動目標を定めるのか、忌憚（きたん）のない練り合い、意見交換を行うために実施されたもの。

論達第四号を全員で拝読した後、挨拶に立った大教会長は、当日10年に一度と呼ばれる寒波による交通混乱と、10年に一度の教祖年祭活動の始まりが立て合ったことに触れ「教祖ひながたの道を真剣に通らせて頂く三年千日にしよう」と呼びかけられた上、大教会記念祭における真柱様のメッセージに「道は末代」と戴いたことから、「どのような困難な道中も、親神様のお心のままに、心明るくお通り下されたひながたを目標に、次世代につながる歩みを進めさせて頂こう」と述べられました。

その後参加者は10班に分かれ、熱心に練り合いを行いました。

練り合いの議題は二つ。

①論達第四号、本部巡教を受けて、教祖140年祭に向かって、教会としてどのような活動方針、または具体的な活動目標を定めようと考えていますか？

②全教会一斉巡教をどのように受け止めていますか。また巡教の進め方について、家族や信者さんにどのような呼びかけ、準備をしていますか？

練り合いの議題を各45分間ずつ話し合った後、再び4階講堂に集合して閉会。続いて、本部西礼拝場へ移動し、全員でお願いづとめを勤めて終了しました。

立教百八十六年 元旦祭 祭典役割

祭主	大教会長			
指図方	片山　勲			
扈者	横山正次 横山富明			
賛者	横関茂治 上野道貞			
	座りづとめ	地方	てをどり	笛 ちゃんぽん 拍子木 太鼓 すりがね 小鼓 琴 三味線 胡弓
	片山　勲 長尾海和 片山幹太郎	大教会長 横山正次 横関茂治 会長夫人 片山やすゑ 長尾澄子		片山秀明 大西太一 長尾大助 上野道貞 森　光征 長尾直太郎 長尾善絵 片山眞喜代 三宅しまえ
	てをどり前半			
	片山　勲 片山秀明 長尾直太郎	横山正次 長尾海和 上野道貞 片山眞喜代 横関明美 長尾善絵		吉田道則 老木りさ 長尾大助 森　光征 片山昇太 横山富明 出田瑞穂 久尾由貴 大西成美
	てをどり後半			
	横山富明 上野道貞 片山昇太	片山秀明 大西太一 森　光征 出田瑞穂 大西成美 久尾由貴		横山正次 片山かおり 片山幹太郎 横関茂治 老木アン 吉田道則 横関明美 老木りさ 上野里子

入社祭（立教186年1月22日）

▼本島△磯本英二　▼宗徳△丸岡和子　▼サウザンパシフィック△ビクター・ザラパ　【計3名】

1月22日（日）
【香川県丸亀市】

天候	晴後曇
最低気温	－1.0℃
最高気温	8.4℃
平均気圧	1025.4hPa
平均湿度	61％
平均風速	1.8m/s
日照時間	4.9時間
降水量	0.0mm

訃報

本島大教会役員 本攝分教会前会長 片山肇氏

片山肇氏（大教会役員、本攝分教会5代会長）は去る令和4年12月30日午前2時お出直しになりました。享年80歳。

葬儀はみたまうつしを令和5年1月3日午後6時より、告別式を翌4日午前10時より、本島詰所において大教会長斎主のもと執り行われました。

片山肇氏略歴　昭和17年8月17日生まれ。昭和41年8月25日、おさづけの理拝戴。昭和48年12月4日、増田孝代さんと結婚。昭和55年12月19日、教会長資格検定合格。同年12月25日、教人登録。昭和57年10月21日、大教会准役員登用。昭和62年1月22日、大教会役員登用。昭和63年2月26日、本攝分教会5代会長拝命。平成13年5月22日、大教会祭事部長。平成15年4月14日、大教会布教部長。立教168年3月22日、教祖120年祭迎祭準備小委員会委員。立教178年1月22日、本島大教会直轄教会世話人。修養科第525期（昭和60年1月から3月）ならびに第741期（平成15年1月から3月）一期講師。立教181年4月26日、本攝分教会長辞職。教会長在職期間30年2ヶ月間。大教会神殿講話は15回勤められた。本部詰員。

本島大教会准役員 本宮濱分教会前会長 岩橋肇氏

岩橋肇氏（大教会准役員、本宮濱分教会3代会長）は去る令和4年12月24日午後4時45分お出直しになりました。享年82歳。

葬儀はみたまうつしを12月26日午後6時より、告別式を翌27日午前8時30分より、岡山県瀬戸内市内の葬祭場において、大教会長斎主のもと執り行われました。

岩橋肇氏略歴　昭和15年12月9日生まれ。昭和34年1月31日、おさづけの理拝戴。昭和35年5月1日、若芽会委員長。昭和36年2月28日、教会長資格検定合格。同年3月3日、天理教校専修科卒業。同年6月14日、教人登録。昭和47年4月16日、向所貴女子さんと結婚。昭和57年10月21日、大教会准役員登用。昭和62年、修養科一年講師。立教161年1月22日、少年会本島団育成委員。立教164年年8月26日、本宮濱分教会3代会長拝命。立教166年4月14日、大教会布教部副部長。立教168年3月22日、本島詰所運営委員会委員。立教172年2月22日、大教会創立110周年記念祭小委員会委員。立教185年2月26日、本宮濱分教会長辞職。教会長在職期間20年6ヶ月間。本島青少年野外活動センター第4代担当者。大教会神殿講話は8回勤められた。また本島島内の長寿会会長、連合自治会長などを勤められた。

本道盛分教会長 板橋幸子姉

板橋幸子姉（本道盛分教会3代会長）は去る令和4年11月30日お出直しになりました。享年96歳。

葬儀はみたまうつしを12月3日に牧野道昭本京分教会長斎主のもと、告別式を翌4日に太田昭一本東分教会長斎主のもと、東京都内の葬祭場で執り行われました。

板橋幸子姉略歴　大正15年2月28日生まれ。昭和34年12月18日、おさづけの理拝戴。同年12月27日、修養科第222期修了。昭和44年8月16日、教会長資格検定合格。同年9月18日、教人登録。昭和50年3月26日、本道盛分教会3代会長拝命。昭和50年12月22日、大教会神殿奉仕人。昭和56年1月22日、婦人会本島支部委員。平成元年9月3日、本道盛分教会神殿建築落成奉告祭。教会長在職47年8ヶ月間。

本柳台分教会前会長 柴田誠一氏

柴田誠一氏（本柳台分教会2代会長）は去る令和4年12月8日お出直しになりました。享年94歳。

葬儀は告別式が12月13日に神奈川県大和市内の葬祭場にて執り行われました。

柴田誠一氏略歴　昭和3年11月1日生まれ。昭和34年10月27日、おさづけの理拝戴。昭和52年11月22日、大教会神殿奉仕人。昭和53年6月27日、修養科第444期修了。同年9月19日、教会長資格検定合格。同年10月1日、教人登録。同年11月26日、本柳台分教会2代会長拝命。立教176年10月26日、本柳台分教会長辞職。教会長在職期間35年間。修養科第502期（昭和58年2月から4月）ならびに第648期（平成7年4月から6月）一期講師。

本廣分教会前会長夫人 白垣トモ子姉

白垣トモ子姉（本廣分教会4代会長夫人）は去る令和4年12月15日お出直しになりました。享年84歳。

葬儀はみたまうつしを12月16日に、告別式を翌17日に、香川県丸亀市内の葬祭場にて執り行われました。

白垣トモ子姉略歴　昭和13年3月4日生まれ。昭和29年、本島鼓笛隊指導員。昭和32年6月24日、おさづけの理拝戴。同年6月27日、修養科第192期修了。昭和34年2月16日、教会長資格検定合格。同年6月13日、教人登録。昭和56年1月22日、婦人会本島支部本廣委員部長。立教163年1月22日、婦人会本島支部委員。平成17年11月22日、大教会神殿奉仕人。

大教会人事

（立教186年1月22日付）

婦人会本島支部

支部長　片山かおり
母親講座　雲庵まち子
同　菅岡和美
同　山内幸子
女子青年担当　吉田要子
同　江崎たまえ
同　佐藤道子
MOMOの会　永島すすみ
同　平井由紀子
同　片山美穂
海外　大西わきえ
同　斉藤かよ
同　岡崎宏子
会計　向所暉美子
同　井上みつの
同　原口和子
大教会帯係　岩橋元実
庶務　片山孝代
同　伊東晴美
同　岡崎むつゑ
【計20名】

第47回鼓笛隊北海道地区冬季合宿

本島団鼓笛隊（鎌田典夫部長）では、1月13日から15日まで、本樺分教会（大上道徳会長、北海道札幌市）を会場に、第47回北海道地区冬季合宿を実施。隊員3名、高校生1名、指導員4名、ひのきしん者10名が参加しました。

14日はパーティーを催し、会食と余興を楽しみました。

最終日は神殿にて御供演奏を実施。マーチ3曲と、「Lets go blue」「ありがとう！夏のおぢば」「パレード・ザ・ホンジマ」の6曲を演奏しました。

合宿は短時間、少人数でしたが、練習の成果を親神様、教祖にご覧頂きました。

閉講式では大教会長よりメッセージが届けられました。「3年後の1月26日、教祖140年祭が勤められます。その日を目指して三年千日、少年会長様である真柱様を中心に、年祭活動が勤められます。教祖はたすけ一条のひながたをお残しくださいました。その心を行いに表したのが世界たすけの『おつとめ』です。皆さんも将来、立派な『おつとめ』がつとめられるようになること、また人々に喜んでもらうことが鼓笛隊活動の目標です。みんなでがんばりましょう。まだまだ寒さ厳しい中ですが、心は温かく、明るく陽気な一年にしましょう。」とのメッセージが代読されました。

なお指導員として、鎌田康典、佐藤祥子の2名が派遣されました。

本海分教会100周年

本海分教会（岩橋守行会長、兵庫県加古川市）では、大正12年3月27日に山崎豊實を担任者として本海宣教所が設立して今年が100周年を迎える節目の年に当たることから、去る1月14日、大教会長夫妻を迎え、春季大祭に合わせて創立100周年記念祭を執り行いました。参拝者10名。

青年会雅楽講習会

青年会本島分会（伊東賢太郎委員長）では、1月8日と9日、本島詰所において「新春雅楽講習会」を開催。青年会員16名が参加しました。経験者は壱越調、初心者は平調を主とした雅楽の習得に励みました。

本府中分教会年祭

本府中分教会（吉田知彦会長、広島市中区）では、同教会2代会長吉田八朗40年祭を、1月2日に吉田知彦会長祭主のもと執り行いました。

事情はこび

立教186年1月、本島関係のお運びはありませんでした。

おさづけの理拝戴

(立教185年12月分)

本幹 谷村穂歌
本九 大口貴司
大雄峰 石原重幸
【計3名】

おさづけお取り次ぎ報告

(立教186年1月22日)

提出教会 19教会
報告数 727回
累計 727回

をびや許し

(立教185年12月分)

▼赤峰△岩上めぐみ
【計1名】

少年会新隊長

(立教185年12月26日付)

本陸奥隊 平井羚哉(れいや)
本都隊 上野誠一郎(せいいちろう)
本米隊 佐藤大翔(だいと)
本高隊 菅岡新(あらた)
本千嘉隊 中山龍聖(りゅうせい)
本肥隊 竹下公太(こうた)
倉峰隊 田尻一真(かずま)
【計7隊】

大教会長動向

▼2月(予定)▲

1月29日～2月4日、海外巡教
5日、攝泉分教会会長就任奉告祭
8日～10日、教会長資格検定講習会講師
11日、岩橋肇五十日祭
13日、本部神殿奉仕当番
15日、本三分教会巡教
17日、本東都分教会巡教
22日、大教会月次祭執行
24日、修養科総立まなび
25日、かなめ会委員会
26日、本部月次祭参拝
27日、かなめ会

以上

ろくぢ会

(立教186年1月分)

▼本島△片山幹太・片山かおり・香葉子・幹太郎・好次・昇太△片山秀明△長尾真実・幸太 ▼樺太分教会 ▼本樺△大上ほの香・はる香・太吉 ▼本浜△片山清枝・正枝・誠 ▼攝泉分教会 ▼崇徳分教会 ▼本高分教会 ▼ポートランド△片山和信・陽子・昇慶・竜次

ご芳志に厚くお礼申し上げます

立教186年1月25日現在

南峰	3月19日	雲庵春彦
吉峰	5月17日	岩橋守行
神峰	2月9日	井上哲
豪峰	4月29日	永島宗行
倉峰	5月24日	大上道徳
栄峰	2月17日	髙島栄造
大雄峰	5月24日	大西知
雄福峰	3月17日	原口実
雄山峰	5月18日	長尾海和
栄森峰	3月1日	秋元浩二
栄星峰	4月4日	永島宗行
栄東峰	3月17日	岡﨑八十則
霊峰	4月9日	原口実
實峰	5月4日	岩橋竜造
大隅聖峰	4月11日	大教会長
大松峰	5月19日	原口実
大駿峰	3月29日	大上道徳
別峰	5月19日	雲庵春彦
吉松峰	4月3日	後藤正治
大英峰	2月5日	岩橋竜造
文峰	5月14日	井上哲
肥後八峰	3月12日	原口実
銀峰	2月11日	井上哲
新信峰	5月9日	雲庵春彦
鶴峰	2月17日	茶屋原良昭
善峰	(未定)	
都峰	5月16日	原口実
仙峰	5月3日	平井真治郎

※海外教会につきましては、現在調整中です。
※巡教日、巡教員は変更することがあります。
※一斉巡教についてのお問合せは大教会総務部(井上哲・岩橋竜造・原口実)までお願いします。

統計(12月1日～31日)

教会名	初席	中席	おさづけ	修養科	教人講習	検定講習
本幹			1			
本九			1			
本新田						1
大雄峰			1			
大隅聖峰	1					
別峰		1				
キャピタル	1					
合計	2	1	3	0	0	1

にをいがけ名簿提出教会(1月)

本倉岡	4	攝泉	2	倉峰	10
本樺	10	本備前	5	雄山峰	23
本室	6	本府中	3	栄森峰	8
渋谷	20	崇徳	4	栄東峰	20
代々木	2	本宣道	1	霊峰	17
本萬代	2	本陽山	2	實峰	94
本都	15	本新田	2	仙峰	71
本京	10	赤峰	8		
本千代	4	豪峰	53		
計25教会		396名			

全教会一斉巡教一覧（立教186年2月～5月）

樺　太	4月10日	片山直明
本田中	5月20日	大西　知
本倉岡	2月18日	岡﨑八十則
本陸奥	4月10日	片山直明
本　樺	4月9日	片山直明
本　室	4月8日	片山直明
渋　谷	2月12日	吉田晴雄
御幸濱	3月8日	山本泰三
本大塚	2月18日	倉嶋孝明
本幸山	（未定）	
本桶川	3月19日	吉田晴雄
宮幸路	（未定）	
本東都	2月17日	大教会長
代々木	5月13日	秋元浩二
本萬代	5月6日	向所隆文
本　都	4月16日	山本泰三
本　京	2月13日	上野作也
本　東	2月12日	秋元浩二
本道盛	2月19日	吉田晴雄
本　草	2月11日	吉田晴雄
本　護	3月16日	後藤正治
本　治	4月8日	上野作也
本　三	2月15日	大教会長
本　惠	2月4日	永島宗行
本恵山	3月12日	吉田晴雄
本惠明	3月18日	大教会長
本静濱	3月4日	永島宗行
本静森	3月16日	秋元浩二
本日米	4月9日	秋元浩二
本　浜	5月15日	永島宗行
本　米	5月13日	倉嶋孝明
本米臺	2月11日	上野作也
本米里	4月15日	上野作也
本米浜	3月16日	大教会長
本千代	4月9日	倉嶋孝明
本千賀	2月4日	倉嶋孝明
本千房	2月4日	倉嶋孝明
本千治	4月16日	倉嶋孝明
本千惠	3月4日	後藤正治
本盛濱	4月3日	上野作也
本盛蘭	4月8日	平井真治郎
本平濱	5月2日	平井真治郎
本埼台	（未定）	
本岡崎	5月13日	後藤正治
本　葵	5月10日	大教会長
本　攝	4月16日	大上道徳
本　花	2月6日	岩橋竜造
本　淀	4月8日	大教会長
攝　良	5月14日	伊東康成
攝　津	2月15日	伊東康成
本　速	（未定）	
攝　城	（未定）	
本吹田	3月8日	伊東康成
攝　泉	3月3日	伊東康成
攝　肥	3月12日	宮路和徳
攝　竜	3月17日	岩橋守行
攝　南	5月10日	伊東康成
攝　滋	5月13日	田中丸勝也
本　邦	2月18日	片山直明
ﾌｨﾘｯﾋﾟﾝ	5月10日	宮路和徳
國　船	3月8日	奥村龍夫
本　篠	3月19日	向所隆文
本　太	5月5日	向所隆文
本　萩	3月12日	田中丸勝也
本　海	2月23日	平井真治郎
同　朋	2月19日	奥村龍夫
仁　徳	（未定）	
本　柳	3月8日	大教会長
本柳台	5月14日	秋元浩二
張家口	（未定）	
那　波	2月5日	池田さわみ
本姫路	（未定）	
本　岡	5月12日	井上　哲
撫　川	4月10日	田中丸勝也
琴　浦	5月15日	髙島栄造
本　幹	3月19日	高垣光治
本日比	2月5日	髙島栄造
本宮濱	3月13日	茶屋原良昭
本承德	5月8日	高垣光治
本水島	3月5日	茶屋原良昭
本　福	4月10日	岩橋守行
本山海	3月5日	髙島栄造
安藝本中	2月18日	奥村龍夫
本陽泉	2月10日	雲庵春彦
本清保	2月8日	宮路和徳
本備前	5月5日	田中丸勝也
本廣島	4月9日	大教会長
本　迪	4月8日	髙島栄造
本府中	（未定）	
本中國	5月14日	茶屋原良昭
沖　浦	（未定）	
馬木尾	3月11日	池田さわみ
本　亀	5月16日	大矢万三
本清水	3月11日	大矢万三
崇　德	3月12日	大矢万三
与　島	2月14日	井上　哲
本　廣	2月12日	長尾海和
本　勇	3月12日	長尾海和
本　髙	4月10日	高垣光治
本宣道	5月8日	茶屋原良昭
阿波本德	5月13日	大矢万三
本阿波	（未定）	
本　九	2月17日	橋口　徹
本小倉	5月14日	池田さわみ
本陽山	5月6日	岩橋竜造
本大和	5月14日	池田さわみ
本新郷	5月5日	岩橋竜造
本九肥	4月30日	肥後　章
本肥港	4月30日	肥後　章
本山陽	（未定）	
本千嘉	5月14日	大教会長
本新田	4月9日	雲庵春彦
本九台	5月11日	肥後　章
本豊後	（未定）	向所隆文
本　肥	4月10日	大教会長
赤　峰	2月15日	池田さわみ
雅　峰	2月14日	雲庵春彦

年間統計表(教会別)

立教 185 年

教会名	別席の誓い	おさづけの理拝戴	三日講習会全課程履修	修養科修了	教人資格講習会修了	教会長資格検定講習会修了	証拠守り	をびや許し
本清保	-	-	-	-	-	-	-	-
本備前	-	-	-	-	1	-	-	-
本廣島	-	-	-	-	-	-	-	-
本迪	-	-	-	-	-	-	-	-
本府中	-	-	-	-	-	-	-	-
本中國	-	-	-	-	-	-	-	1
沖浦	-	-	-	-	-	-	-	-
馬木尾	-	-	-	-	-	-	-	-
本亀	-	-	-	-	-	-	-	-
本清水	-	-	-	-	-	-	-	-
崇徳	1	1	-	-	-	-	2	-
与島	-	-	-	-	-	-	-	-
本廣	-	-	-	-	-	-	-	-
本勇	-	-	1	-	-	-	-	-
本髙	-	-	-	-	-	-	-	1
本宣道	-	-	-	-	-	-	-	-
阿波本徳	-	-	-	-	-	-	-	-
本阿波	-	-	-	-	-	-	-	-
本九	-	1	-	-	-	-	-	-
本小倉	1	-	-	-	-	-	-	-
本陽山	1	-	-	-	-	-	1	1
本大和	-	-	-	-	-	-	-	-
本新郷	-	-	-	-	-	-	-	1
本九肥	-	-	-	-	-	-	-	-
本肥港	-	-	-	-	-	-	1	-
本山陽	-	-	-	-	-	-	-	-
本千嘉	1	-	-	-	-	-	-	-
本新田	-	-	-	-	-	1	-	-
本九台	-	-	-	-	-	-	-	-
本豊後	-	1	-	-	-	-	-	-
本肥	-	-	-	-	-	-	-	-
赤峰	1	1	-	1	-	-	1	2
雅峰	-	-	-	-	-	-	-	-
南峰	1	-	-	-	-	-	-	-
吉峰	3	1	-	-	-	-	1	1
神峰	2	1	-	-	-	-	-	-
豪峰	1	-	-	-	-	-	-	-
倉峰	3	-	-	-	-	-	-	-
栄峰	-	-	-	-	-	-	-	-
大雄峰	-	2	-	-	-	-	-	-
雄福峰	5	1	-	-	-	-	2	-
雄山峰	-	-	-	-	-	-	-	-
栄森峰	1	1	-	-	-	-	-	1

教会名	別席の誓い	おさづけの理拝戴	三日講習会全課程履修	修養科修了	教人資格講習会修了	教会長資格検定講習会修了	証拠守り	をびや許し
栄星峰	-	-	-	1	-	-	1	-
栄東峰	-	1	-	-	-	-	-	-
霊峰	-	1	-	-	-	-	-	-
實峰	-	-	-	-	-	-	-	1
大隅聖峰	1	1	-	-	-	-	-	1
大松峰	-	-	-	-	-	-	-	-
大駿峰	3	-	-	-	-	-	-	-
別峰	1	2	-	-	-	-	1	-
吉松峰	2	-	-	-	1	-	-	-
大英峰	-	-	-	-	-	-	-	1
文峰	1	-	-	-	-	-	-	1
肥後八峰	2	1	-	1	-	-	1	3
銀峰	-	-	-	-	-	-	-	1
新信峰	3	2	-	3	-	-	2	-
鶴峰	-	2	-	-	-	-	-	2
善峰	1	-	-	-	-	-	-	-
都峰	-	1	-	-	1	-	-	-
仙峰	-	-	-	-	-	-	-	-
ホノルル	-	-	-	-	-	-	-	-
カイムキ	-	-	-	-	-	-	-	-
カカコ	-	-	-	-	-	-	-	-
ラナイ	-	-	-	-	-	-	-	-
台檀	-	-	-	-	-	-	-	2
キャッスル	-	-	-	-	-	-	-	-
ヒロ	-	-	-	-	-	-	-	-
マウイ	-	-	-	-	-	-	1	-
ポートランド	-	-	-	-	-	-	-	-
エヌ・シー	-	-	-	1	-	-	-	-
ウエスタン	-	-	-	-	-	-	-	-
マリーナ	1	-	-	-	-	-	-	-
イリノイ	-	-	-	-	-	-	-	-
ミッドウエスト	-	-	-	-	-	-	-	-
キャピタル	2	-	-	-	-	-	-	-
サウザンパシフィック	2	2	-	-	-	-	1	-
シアトル	-	-	-	-	-	-	-	-
ハリウッド	-	-	-	-	-	-	-	-
ウイルソン	-	-	-	-	-	-	-	-
タミナル	-	-	-	-	-	-	-	-
カリフォルニア	-	-	-	-	-	1	-	-
シータック	-	-	-	-	-	-	-	1
本伯	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	**51**	**33**	**1**	**9**	**5**	**3**	**17**	**37**
前年比	+20	-1	+1	-3	-1	+1	+7	+27

立教185年

年間統計表(教会別)

教会名	別席の誓い	おさづけの理拝戴	三日講習会全課程履修	修養科修了	教人資格講習会修了	教長資格検定講習会修了	証拠守り	をびや許し
本島	-	1	-	-	-	-	-	1
樺太	2	-	-	-	-	-	-	-
本田中	-	-	-	-	1	-	-	-
本倉岡	-	-	-	-	-	-	-	-
本陸奥	-	-	-	-	-	-	-	-
本樺	-	-	-	-	-	-	-	1
本室	-	-	-	-	-	-	-	1
渋谷	-	1	-	1	-	-	-	1
御幸濱	-	-	-	-	-	-	-	-
本大塚	-	-	-	-	-	-	-	-
本幸山	-	-	-	-	-	-	-	-
本桶川	-	-	-	-	-	-	-	-
宮幸路	-	-	-	-	-	-	-	-
本東都	-	-	-	-	-	-	-	1
代々木	-	-	-	-	-	-	-	-
本萬代	-	-	-	-	-	-	-	-
本都	1	1	-	-	-	-	-	-
本京	-	-	-	-	-	-	-	1
本東	-	-	-	-	-	-	-	-
本道盛	-	-	-	-	-	-	-	-
本草	-	-	-	-	-	-	-	-
本護	-	-	-	-	-	-	-	-
本治	-	-	-	-	-	-	-	-
本三	-	-	-	-	-	-	-	-
本惠	1	-	-	-	-	-	-	-
本恵山	-	-	-	-	-	-	-	-
本惠明	-	-	-	-	-	-	-	-
本静濱	1	1	-	-	-	-	-	-
本静森	-	-	-	-	-	-	-	-
本日米	-	-	-	-	-	-	-	-
本浜	-	-	-	-	-	-	-	-
本米	-	-	-	-	-	-	-	-
本米臺	-	-	-	-	-	-	-	-
本米里	1	-	-	-	1	1	1	2
本米浜	-	-	-	-	-	-	-	1
本千代	-	-	-	-	-	-	-	1
本千賀	-	-	-	-	-	-	-	-
本千房	-	-	-	-	-	-	-	-
本千治	-	-	-	-	-	-	-	-
本千惠	-	-	-	-	-	-	-	-
本盛濱	1	-	-	-	-	-	-	-
本盛蘭	-	-	-	-	-	-	-	-
本平濱	-	-	-	-	-	-	-	-

教会名	別席の誓い	おさづけの理拝戴	三日講習会全課程履修	修養科修了	教人資格講習会修了	教長資格検定講習会修了	証拠守り	をびや許し
本埼台	-	-	-	-	-	-	-	-
本岡崎	-	-	-	-	-	-	-	-
本葵	-	-	-	-	-	-	-	-
本攝	-	1	-	-	-	-	-	-
本花	-	1	-	-	-	-	-	-
本淀	-	-	-	-	-	-	-	1
攝良	-	-	-	-	-	-	-	-
攝津	-	-	-	-	-	-	-	1
本速	-	-	-	-	-	-	-	-
攝城	-	-	-	-	-	-	-	-
本吹田	-	-	-	-	-	-	-	-
攝泉	-	-	-	-	-	-	-	-
攝肥	-	-	-	-	-	-	-	-
攝竜	-	-	-	-	-	-	-	-
攝南	-	-	-	-	-	-	-	-
攝滋	-	-	-	-	-	-	-	-
本邦	1	-	-	-	-	-	-	-
フィリッピン	1	-	-	-	-	-	-	1
國船	-	-	-	-	-	-	-	-
本篠	-	-	-	-	-	-	-	-
本太	-	-	-	-	-	-	-	-
本萩	-	-	-	-	-	-	-	-
本海	-	-	-	-	-	-	-	-
同朋	-	1	-	-	-	-	-	1
仁德	-	-	-	-	-	-	-	-
本柳	-	-	-	-	-	-	-	-
本柳台	-	-	-	-	-	-	-	-
張家口	-	-	-	-	-	-	-	-
那波	-	-	-	-	-	-	-	-
本姫路	-	-	-	-	-	-	-	-
パシフィックコースト	-	-	-	-	-	-	-	-
本岡	-	-	-	-	-	-	-	-
撫川	-	-	-	-	-	-	-	-
琴浦	-	-	-	-	-	-	-	-
本幹	1	2	-	-	-	-	-	-
本日比	-	-	-	-	-	-	-	1
本宮濱	-	-	-	-	-	-	-	-
本承德	-	-	-	-	-	-	-	-
本水島	1	1	-	1	-	-	1	-
本福	-	-	-	-	-	-	-	-
本山海	-	-	-	-	-	-	-	-
安藝本中	-	-	-	-	-	-	-	-
本陽泉	-	-	-	-	-	-	-	1

大教会からのお知らせ

1月22日教会長会議連絡事項

教会長登殿参列

【登殿参列係】

教祖140年祭教会長登殿参列について

●本島大教会の割当月は10回

立教186年5月(15名)、8月(15名)、11月(14名)、立教187年2月(18名)、4月(15名)、6月(18名)、9月(20名)、12月(19名)、立教188年3月(15名)、7月(11名)

●教会長の登殿月は登殿係で決めさせて頂きます。

●登殿参列の流れ

1．詰所で教服を着用し、写真の間集合。諸説明後、バスにて出発
2．西境内地の登殿受付建物より入場
3．直属ごと神殿へ参進(西廻廊を経由し、西礼拝場より登殿)
4．神殿結界内にて着席
5．神殿講話終了後、教祖殿へ参進(徒歩は東廻廊。車椅子は西廻廊)
6．教祖殿御用場にて教祖ならびに祖霊様礼拝
7．内統領または表統領よりごあいさつ
8．登殿受付建物へ移動、詰所へ戻り写真の間にて解散

※教服の貸出はありませんので、各自でご用意ください

●海外教会長の登殿参列について

通訳月が決まっていますので、通訳の必要な教会長は次より選択。

立教186年11月、立教187年3月、4月、11月、立教188年3月、4月

※通訳を必要としない教会長は大教会の割当月より選択

※通訳は祭文奏上、神殿講話・教祖殿御用場のあいさつのみ。誘導の通訳はありません

●車椅子の使用について

正座での参列や徒歩での移動が困難な教会長は、車椅子をご利用いただけます。係へご相談ください。

●登殿参列担当者：平井真治郎役員

https://www.honjima.com/

本島大教会ウエブサイト

レッツゴー青年会

【青年会本島分会】

●期間：2月10日㈮、11日㈯、12日㈰
●会場：本樺分教会、本室分教会、樺太分教会
●内容：雪かき・雪下ろしひのきしん等

※参加者を募集しています

春の学生おぢばがえり

【天理教学生担当委員会】

立教186年 春の学生おぢばがえり
― 次代を担うようぼくへ ―

●式典：学生がおぢばへ帰り集い、真柱様からメッセージを頂戴する大切な機会です。しっかりと心に治め、次代を担うようぼくへと成人することを誓い合います。
●日時：3月28日(火)午前10時式典
●内容：3月27日(月)午後2時、ひのきしん(本部神殿西廻廊)、おたのしみ行事(西泉水プール前広場)
3月28日(火)午前10時式典「真柱様メッセージ(代読)」(本部中庭)、式典後、直属アワー

honjima.com 新機能

【本島通信編集室】

●各種書類をダウンロードできるようになりました

◇〈本島大教会年譜表〉立教186年版
明治元年(1868)から令和4年(2022)まで、本島大教会ならびに天理教本部・塩飽本島史の出来事を時系列順にまとめています。PDF形式、375頁、3.1MB

◇〈本島大教会年譜表〉教会別
明治35年本島布教所設置から今日まで、本島大教会にあったすべての部内教会(昭和15年に分離陞級する京城大教会も含む)の年譜表を、教会ごとにまとめています。訂正や追記事項がありましたら、本島通信編集室までお知らせ下さい。PDF形式、148頁、1.5MB

◇〈にをいがけ名簿〉報告用紙
◇〈おさづけお取り次ぎ〉報告用紙
本島大教会では、新たに匂いがけされた方の名簿、ならびにおさづけお取り次ぎ報告を大教会へご提出いただき、毎月21日(4月は13日)夕づとめ後、ご守護を祈念し、「お願いづとめ」を勤めさせて頂きます。

婦人会第105回総会

【婦人会本部】

●日時：4月19日(水)
午前10時30分式典
●場所：本部中庭

2月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

〈大教会・食堂ひのきしん〉
●期間：2月21日～22日
●派遣教会：本九

〈詰所・食堂ひのきしん〉
●期間：2月25日、26日
●派遣教会：本京、本福

大教会2月月次祭ライブ中継

【本島通信編集室】

●対象：2月22日大教会2月月次祭に帰参できないため、ライブ中継視聴を希望する方
●申込方法：
メールで、**live@honjima.com**に「ライブ希望」と「教会名・氏名」を記入してお申し込みください。当日朝ライブ視聴できるアドレスをメールでお知らせします。
●申込締切：2月21日午後5時まで
●ご注意：ライブ中継は毎月のお申し込みとなります。申込み後、自動返信メールが送られます。届かない場合は各自の迷惑メールフォルダをご確認ください。

●本島通信の各種申込み手続ができるようになりました。

◇本島通信web版申込み
◇印刷物の送付先の住所変更(印刷物の新規申込みは休止しております。web版をお申し込みください)
◇配信配送休止

●YouTube限定動画をアップしました

◇ YouTube ほんじま百景２０２０
◇ YouTube ほんじま百景２０２１
◇ YouTube ほんじま百景２０２２